

森林防疫ニュース

VOL. 7

No. 7

(No.76)

編集 林野庁

発行 全国森林病虫獣害防除協会

1958. 7. 1

薬剤防除によせて

加 辺 正 明

戦後になつて森林病虫害防除は著しく変つた。その1つは薬剤的防除で、農薬の使用が積極的に考えられ、防除上一大躍進をみせているのは周知のとおりである。しかし如何に立派な新農薬があつても合理的な防除計画のもとに使用されるのでなければその成果に期待がもてない。農業における病虫害とちがい森林病虫害の薬剤防除は森林の事情で技術的にも甚だ困難を来すことがある。

われわれが薬剤による防除計画を立てるためには、まず病虫害の分類学的ならびに生態学的研究を進めてから、それに基づいて行うのが常道である。防除実行に当つてはとくに目的病虫害の生態を充分にのみこみ、かつ諸般の森林事情を把握した上で農薬を活用する手法によらねばならないのである。

生態研究は病虫害の種類も多く、種類によつては長期観察を要するものもあつて、しかも研究者自身観察調査するよりほか途がないので、いきおい完成するには長い日時を必要とするのである。研究費の不足はもとより、現在のように研究員の数が少なくは至難といつても過言ではあるまい。私は昆虫学会に出席するたびに、わが国には昆虫学者が決して少なくないのに、なぜ森林昆虫の研究に携わる人が少ないのか不思議でならない。現在わが国には昆虫学を専攻した若い大学出の人だつて沢山いるのに林業界に、これらの若い研究者を迎え難いというようなことは、まことに遺憾なことである。

研究者の貧困化がどこに起因するのかは別として、若し研究員の増員が望めないなら、せめて現在の林業技術者に積極的に病虫害の知識を深めるようにしむけてはどうなのか。早急にこの問題を解決しない限り、如何に薬剤をとりいれてみても病虫害防除の目的を達成することは、不可能である。

かかる意味において、本誌が情報欄に多少なりとも、病虫害の実態を現業員自身の観察によつて得たものを集めて正確に記録していることは防除の根底を基礎づけるもので、この点にもつともつと力を注ぐべきである。最近の林野における農薬の使用量は年々激増する傾向にあり、われわれ防除研究に携わるものは使命の重大性を痛感する。今後さらに研究員の増加することに期待をかけたと思う次第である。

(前橋営林局計画課・農博)

目 次

巻頭言.....	加辺 正明.. 1
情 報.....	2
解 説	
2, 3 の顕花植物による樹木の被害 ..	佐藤 邦彦..11
マツ類を食害するハバチ	
一とくにマツノキハバチと	
マツノミドリハバチについて..	加藤 幸雄..13

紹 介	
ノウサギの伝染病.....	池田真次郎..16
雑 録	
昭和32年度林業試験場保護部業務報告会	
.....	今関 六也..18
編集後記.....	20

森林防疫 ニ ュ ー ス

情 報

◇ 被害速報
病 害

○ タケの開花病 (自然枯)

香川 仲多度郡琴南町大字美合のタケ林 (主として苦竹) に発生, 32年春発生。被害面積120町, 被害本数600,000本, 被害材積45,000束。被害は川に沿った竹林が15kmに亘り開花し40町歩が枯死している。今後も拡大の見込み。(県林務課・好井 成二 6.5)

○ スギの枝枯病

岡山 新見市及び阿哲郡大佐町の3~30年生スギ人工造林地に発生, 4月28日発見。被害面積200町, 被害本数500,000本。被害甚だしく山火事跡の様相をしている。(県・大谷 三平 5.6)

大分 大野郡緒方町大字長谷川の2~6年生スギ林に発生, 5月12日発見。被害面積1町5反, 被害本数4,500本。枯死にまで至っていないが山火事跡の様相をしている。(県・長野 愛人 Sp. 5.22)

宮崎 西臼杵郡高千穂町大字向山字尾符のスギ林に発生, 5月7日発見。被害面積22町, 被害本数45,000本, 被害材積7,000石。被害は幼令から壮令に及ぶ風当りの強いヶ所に多く, 点々と梢端部が枯死している。(高千穂町・重山 良真 5.12)

○ スギの暗色枝枯病

宮崎 熊本局高岡署高岡経営区5, 6, 7林班 (東諸県郡高岡町内山) の5~7年生スギ林に発生, 4月6日発見。被害面積2町4反, 被害本数800本。谷筋より中腹にかけて点状に枯損している。(高岡署・野村技官 5.10)

○ スギの黒粒葉枯病

滋賀 高島郡朽木村大字中牧外3の30年生以下のスギ林に発生, 4月25日発見。被害面積100町, 被害材積21,000石。下枝から枯れ上り樹冠にわずかの緑葉をとどめている。(湖西産業事務所林業課・田中 茂 5.22)

岡山 新見市干屋大字花見, 井原, 実の3~20年生スギ林に発生, 4月26日発見。被害面積40町, 被害本数50,000本。被害は下枝から上へ向い積雪の多い谷間等の過湿な場所に多い。(第13森林区・稲神 和昌 Ag. 5.8)

阿哲郡大佐町大井野の3~20年生スギ林に発生, 5月1日発見。被害面積65町, 被害本数60,000本, 被害材積1,100石。被害は下枝より樹冠の中部まで枯れ上っている。(第18森林区・西村 定巳 Ag. 5.7)

- スギの黒点枝枯病
- スギの黒粒葉枯病

青森 青森局野辺地署野辺地経営区309林班い小班 (上北郡甲地町大字横沢) の昭和24年度植栽スギ林に発生, 5月8日発見。被害面積約16町, 被害本数30,000本。植栽全面積約16町のうち約6町は成林を期待出来るが, 約10町は適地判定を誤り樹勢衰弱, 罹病し, 34年度改植の要あり, 33年秋地拵の際全木焼却の予定である。(野辺地営林署・逢坂 正雄 6.7)

○ 立枯病

群馬 吾妻郡吾妻町大字岩下の当年生カラマツ播種床に発生, 5月17日発見。被害面積15坪。被害は根腐型及び根腐型で全体の約2割5分が罹病している。(吾妻林業事務所・石内伸三郎 5.20)

山口 都濃郡都濃町大字須々万の檜2回床替床に発生, 5月4日発見。被害面積200坪, 被害本数5,000本。被害は苗畑の二分の一が枯損寸前でウスプルン800倍液を坪当たり2~3升あて2回散布して防除につとめた。(都濃町・久行 勇 6.5)

○ マツの葉さび病

宮城 牡鹿郡牡鹿町鮎川字黒崎の2年生アカマツ, クロマツ林に発生, 5月7日発見。被害面積2町, 被害本数100本。被害は針葉裂開し, 胞子が飛散している。被害のものは落葉寸前である。(県・早坂 義雄 Sp. 5.12)

岩手 青森局水沢営林署公有林野等官行造林地阿原山1の7 (江刺郡江刺町大字伊手) の3年生アカマツ造林地に発生, 5月4日発見。被害面積1町, 被害本数2,500本。被害は葉の先端に卵殻が並列し胞子が飛散している。(水沢営林署・村川 政雄 6.9)

一関市舞川町大字吉祥の5年生アカマツ林に発生, 5月15日発見。被害面積10町。生長を阻害されている。気仙郡住田町大字下有住奥新切の3年生アカマツ人工林に発生, 5月9日発見。被害面積10町。生長を阻害されている。(県 6.7)

茨城 新治郡八郷町大字柿岡字丸山4,117の3の5年生アカマツ林に発生, 5月10日発見。被害面積6畝, 被害本数400本, 被害材積0.3石。被害は葉の中央部に5~8の小さな亀裂を生じ, 亀裂は茶褐色を呈し胞子を飛散している。(土浦支庁・多田 義一 Ag. 6.6)

大阪 豊能郡能勢町大字長谷の5年生アカマツ林に発生, 5月1日発見。被害本数10本。(府林務課・吉田三八郎 Sp. 5.9)

山口 玖珂郡美和町大字下畑の当年生アカマツ林に発生, 4月10日発見。被害面積3町, 被害本数5,000本。(美和町・堀江 哲三 Ag. 5.14)

愛媛 喜多郡内子町大字論田字ツブセイワの5~7年生クロマツ天然林更新地に発生, 4月発見。被害面積1町。(県林務課・門屋 勝郎 5.9)

- マツの葉ふるい病
- マツカレハ

森林防疫ニユース

愛知 挙母市大字挙母の40年生クロマツ林に発生、5月2日発見。被害面積1畝、被害本数6本、被害材積1石。被害は針葉が全面的に黄変し手おくれの感がある。5斗式ボルドー液及びBHC粉剤 γ 3%を散布し防除した。(県挙母事務所・安藤 忠道 Ag. 5. 7)

○ キリの天狗巣病

群馬 吾妻郡中之条町大字西中之条の5年生日本桐林に発生、5月23日発見。被害面積1町3反、被害本数910本、被害材積180石。桐林の全林木に互り枝端或いは梢頭に発生、枯死するもの若干あり。被害枝の切除と被害の甚だしいものの除去を行う。

(中之条町・小池 茂男 Ag. 6. 3)

○ クスの炭そ病

大分 大分郡大南町大字仁田原の8年生クス林に発生、5月12日発見。被害面積8反、被害本数1,600本。葉に黒斑を多数形成し褐変している。全木の2割程度は全く落葉している。

(県林業課・長野 愛人 Sp. 5. 22)

虫害

○ サクラコブアブラムシ

群馬 碓氷郡安中町大字中宿の東邦亜鉛株式会社安中製錬所工場内に植栽されている大島桜に発生、5月3日幼虫発見。被害本数1,000本、被害材積20石。虫糞をつくり中に這入っているもの及び若葉に附着している。DNマシソ水溶剤で駆除した。

(榛名町・細谷 完 5. 23)

○ スギノマルカイガラムシ

○ ヒメナガカイガラムシ

長崎 熊本局対馬署対馬経営区15林班ちよと、小班(上県郡峰村大字三根)の3~4年生スギ林に発生、5月10日成虫発見。被害面積約6町、被害本数約6,300本。被害は相当の衰弱は見られるが枯死するまでにいたっていない。(対馬営林署長 5. 17)

○ マツモグリカイガラムシ

山口 阿武郡田万川町三明下の19年生マツ林に発生、32年8月30日卵発見。被害面積1反5畝、被害本数50本、被害材積10石。この同定について京試第28号により林業試験場京都支場長から回答に接している。

(田万川町・山県 忠義 6. 9)

阿武郡田万川町小川の12~50年生アカマツ人工林に発生、5月10日発見。被害面積5反。被害樹は樹勢が衰弱している。冬期DNマシソール散布及び被害樹の穂果は8月頃までに焼却する予定。(県 5. 31)

○ カイガラムシ類の1種

広島 大阪局西条署西条経営区28林班い小班(賀茂郡黒瀬町大字市飯田)の30年2月植栽スギ林に発生、4月19日発見。被害面積1町、被害本数3,000本。梢端部が赤変枯死し成長が停止している。一部を除き成林不能。林試京都支場で同定中。

(乃美尾担当事務所・桶野 政男 6. 9)

○ カラマツツツミノガ

北海道 帯広局上士幌署上士幌事業区11林班は小班(河東郡上士幌町)の2年生カラマツ林に発生、6月5日発見。被害面積20町、被害本数50,000本。食害葉は淡褐色に変色し緑葉を失い枯死するおそれがある。

(上士幌営林署・古畑 圭二 6. 6)

夕張市栗山町夕張事業区角田経営区8, 9, 11, 12, 29林班の5~40年生カラマツ林に発生、5月24日幼虫発見。被害面積55町。下枝より逐次梢端へ食害している。

(栗山町・児玉 一夫 6. 5)

岩手 青森局大船渡署大船渡経営区73, 75林班(気仙郡住田町大字世田米)の19~20年生カラマツ人工林に発生、5月16日幼虫発見。被害面積20町。新葉新芽を食害されている。(大船渡営林署 5. 21)

○ マツツマアカシノキ(マツツマアカハマキ)

鹿児島 川辺郡一円の2~20年生マツ人工林に発生、5月幼虫発見。被害面積1,000町。新梢を食害穿孔し、畸形木となる恐れがある。被害新梢を切除焼却して防除につとめている。

(加世田農林事務所・山口 信雄 Ag. 6. 10)

○ ハイイロアミメハマキ

群馬 前橋局月夜野署後関経営区52, 53, 54林班(利根郡月夜野町大字小川)の20~50年生カラマツ林に発生、5月20日発見。被害面積123町。新葉を食害し全林褐色に変色している。

(五牧担当区・長嶋麻由美 6. 3)

○ ツゲノメイガ

福岡 熊本局日田署久留米事業区甘木経営区20林班よ、た、れ、そ小班(甘木市大字江川)の26~168年生ツゲ林に発生、5月20日幼虫発見。被害面積1町4反、被害本数1,210本、被害材積86石。被害林はツゲの天然及び人工林で毎年被害を受けている。硫酸鉛石灰液及びBHC粉剤を散布駆除している。(日田営林署 5. 30)

○ マツカレハ

岩手 青森局水沢署水沢経営区24林班り。小班六本松官行造林5。(胆沢郡前沢町大字白鳥)の9~55年生アカマツ林に発生、5月29日幼虫発見。被害面積15町、被害本数45,000本。中位以下の枝葉の先端を食害している。

青森局水沢経営区9, 10, 11林班(江刺郡江刺町大字藤里)の5~57年生アカマツ天然林及び人工林に発生、5月4日発見。被害面積44町、被害本数100,000本。下枝より梢端まで食害し特に林縁に多い。

(水沢営林署・村川 政雄 6. 9)

青森 八戸市大字市川の9~12年生クロマツ人工林に発生、5月5日発見。被害面積2町5反。被害地は飛砂防備林であり後方の農耕地に飛砂による被害を防ぐためBHC粉剤 γ 3%を散布防除した(県 6. 4)

森林防疫 ニ ュ ー ス

宮 城 牡鹿郡牡鹿町大字鮎川の2~50年生アカマツ、クロマツ天然林に発生、5月7日発見。被害面積61町、被害本数15,000本。被害程度は中害。5月下旬燻煙剤、BHC 3% 粉剤で防除。

(県・早坂 義雄 Sp. 5. 12)

気仙沼市大字著上岩井崎、長平の3~30年生アカマツ、クロマツ林に発生、5月6日発見。被害面積10町、被害本数26,000本。防潮林及びパルプ資源林に発生したが早期発見駆除につとめたため被害微害。

(気仙沼市・南部 繁利 Ag. 5. 12)

牡鹿郡牡鹿町網地浜字山居浜外の2~50年生アカマツ、クロマツ天然林に発生、5月7日発見。被害面積61町。針葉を食害し枯死するにはいたらないが生育が阻害されている。微害及び中害。5月燻煙剤及びBHC粉剤により防除。

(牡鹿町・斎藤 忠 Ag. 5. 13)

青森局気仙沼署気仙沼事業区26, 27, 31林班(気仙沼市)の3~48年生人工及び天然林に発生、5月24日発見。被害面積41町。樹冠中央部以上の針葉を食害している。

(気仙沼署・小林 浅吉 6. 9)

山 形 西置賜郡飯豊町大字歌丸の6~10年生アカマツ林に発生、5月12日発見。被害面積21町、被害本数84,500本。幼虫の食害により樹勢が衰弱している。

(県・斎藤 諦 Sp. 5. 15)
(長井市・溝延 芳吉 Ag.)

東置賜郡宮内町大字宮内字向山、水林の10~45年生アカマツ天然林に発生、5月27日発見。被害面積約60町。養蚕地帯につき時期の選定がむづかしいがBHC粉剤を散布する予定。

西置賜郡飯豊町大字添川字行人沢、金山沢、与作沢の5~15年生アカマツ天然林に発生、5月13日発見。被害面積21町。一部薬剤散布したが、今後薬剤により防除する予定。

(県 6. 5)

福 島 前橋局原町署原町経営区124林班に小班(相馬郡小高町大字村上)の1年生クロマツ林に発生、6月7日発見。被害面積1町、被害本数500本。樹高10~20cm程の造林木1本に1~2匹の幼虫が食害している。

(小高担当区・門馬 勝 6. 9)

前橋局原町署中村経営区63林班な、ま小班(相馬市大字磯部字大洲)の7~8年生クロマツ林に発生、4月28日発見。被害面積20町、被害本数10,000本。被害地は29年度大なる被害を受け29~31年はBHC水和剤により32年は燻煙剤により駆除したが当時の卵が孵化したものである。燻煙剤により駆除予定。

(中村担当区・佐藤 宗雄 5. 5)

前橋局原町署原町事業区63林班(相馬市大字磯部)の20~90年生アカマツ天然林4~8年生クロマツ人工林に発生、5月31日発見。被害面積微害1町、中害4町、微害20町。被害本数9,500本。

(原町営林署・川田 豊 6. 7)

栃 木 東京局笠間署笠間経営区60, 63, 64, 65林班(芳賀郡益子町)の12~17年生アカマツ、クロマツ林に4月下旬発生。被害面積微害20町。昨年一部発生したのでBHCを散布。

(局 6. 2)

下都賀郡岩舟村大字曲の島の5年生アカマツ、クロマツ林に発生、4月発見。被害面積1町、被害本数2,000本。駆除実施の予定である。

(佐野林業事務所・田村 博美 5. 6)

茨 城 県下各地に発生、その被害面積は次の通り4月1日~5月8日発見。

東茨城郡常澄村5町。美野里村30町。茨城町1町。

西茨城郡笠間町5町。友部町20町。岩間町10町。岩瀬町20町。

鹿島郡鹿島町10町。神栖村20町。波崎町80町。

竜ヶ崎市20町。

稲敷郡阿見町25町。牛久町25町。江戸崎町30町。新利根村10町。美浦村20町。荖崎村10町。東村10町。桜川村10町。

北相馬郡宇谷町5町。取手町2町。

下館市20町。

下妻市20町。

真壁郡関城町5町。明野町50町。協和村20町。大和村20町。真壁町50町。

結城市10町。

結城郡八千代村40町。石下町5町。

県下合計608町。(県 5. 12)

勝田市稲田町大字老ノ塚の4~15年生アカマツ林に発生、5月22日発見。被害面積4町6反8畝、被害本数18,400本。BHC 3% 粉剤により駆除を行う予定。

(那珂町・大窪 啓司 Ag. 5. 23)

群 馬 利根郡利根村大字園原の3年生アカマツ村有林に発生、5月23日発見。被害面積5町、被害本数12,000本。

(利根村・小坂橋政雄 Ag. 5. 24)

利根郡月夜野町大字石倉の3~4年生アカマツ林に発生、5月24日発見。被害面積2反。被害は微害である。

(月夜野村・武井 尋匡 Ag. 5. 28)

千 葉 東金市正気町大字家徳の15~18年生アカマツ林に発生、5月2日発見。被害面積5町、被害本数13,000本。

(東金市・戸田 茂 5. 13)

山武郡土気町大字大和田のマツ林に発生、4月3日発見。被害面積40町。一部枯死したのも見受けられる。

(土気町・佐藤 優 Ag. 5. 13)

山武郡山武町大字麻生新田の10年生クロマツ林に発生、4月21日発見。被害面積1町3反、被害本数3,050本。

(八街町・三須 正行 Ag. 5. 13)

新 潟 北蒲原郡笹村大字羽黒外の10~25年生アカマツ人工林に発生、5月9日発見。被害面積中害20町、微害80町。中害20町は薬剤散布の予定である。

(県 5. 16)

森林防疫ニュース

長野 上伊那郡辰野町大字辰野字唐木沢の4~8年生アカマツ天然林に発生, 5月13日発見。被害面積中害2町。BHC粉剤により駆除予定。

上伊那郡辰野町大字赤羽字荒神山の5~40年生アカマツ天然林に発生, 4月30日発見。被害面積激害5町。従来被害に対して駆除が行われていなかったため10年生前後のアカマツに枯死寸前のものが見受けられる。BHC粉剤散布により駆除を行う予定。

北佐久郡浅科村大字桑山寺尾の13年生アカマツ天然林に発生, 4月22日発見。被害面積15町。全林がやや黄色になり枯死することも考えられる。BHC粉剤により駆除を行う予定。(県 6.3)

岐阜 名古屋市中津川署三郷官行造林地(恵那市三郷町)の3年生クロマツ林に発生, 5月19日発見。被害面積10町, 被害本数10,000本。被害は多いものは1本に30匹位で食害している。BHCを散布防除を行う。

(署・大久保茂秋 5.22)

静岡 浜名郡湖西町大字太田南山の10年生マツ天然散生林及び人工林に発生, 4月17日発見。被害面積5町, 被害本数10,000本。薬剤散布により駆除する。

(二俣林業事務所・瀬戸 武行 5.27)

吉原市元吉原地区防潮林一帯の15~50年生マツ林に発生, 6月1日発見。被害面積30町。

(沼津林業事務所・野山技師 6.3)

愛知 南設楽郡作手村一帯のアカマツ, クロマツ林に発生, 4月25日発見。被害面積50町。特に15年生位の被害が著しい。

(作手村・内藤 孝夫 Ag. 5.12)

南設楽郡鳳来町海老, 連合の3~7年生アカマツ林に発生, 5月2日発見。被害面積1町5反。

(海老森林組合 5.17)

三重 員弁郡藤原村大字鼎の3~10年生アカマツ, クロマツ林に発生, 5月13日発見。被害面積中害10町, 微害10町。BHC 3%粉剤散布予定。

員弁郡北勢町大字阿下喜の5~10年生アカマツ, クロマツ林に発生, 5月13日発見。被害面積中害10町, 微害10町。BHC 3%粉剤散布予定。

四日市市泊ヶ丘町の5~20年生アカマツ, クロマツ林に発生, 5月10日発見。被害面積激害2反, 中害1町, 微害10町。激害地では枯損したもの約800本。BHC粉剤γ3%を激, 中害地に散布した。(県 6.3)

滋賀 大阪局大津署大津経営区80林班い小班(近江八幡市島町大字島)の4年生アカマツ林に発生, 5月21日発見。被害面積1町。BHC散布予定。

大阪局大津署大津経営区78, 79林班(近江八幡市島町大字奥島山)の8~10年生アカマツ林に発生, 5月27日発見。被害面積1町9反。針葉を食害被害軽微。

大阪局大津署大津経営区85林班に, り小班(神崎郡能登川町大字伊庭山)の8~10年生アカマツ林に発生, 5月

27日発見。被害面積6反4畝。被害軽微。

(大津営林署 6.3)

兵庫 大阪局神戸署神戸経営区63林班外5(西宮市大字甲山, 芦屋市)の7~60年生アカマツ, クロマツ林に発生, 5月中旬発見。被害面積23町, 被害本数6,300本。被害は生育阻害程度。30年, 31年BHC粉剤で駆除。

(西宮市・松村 実治 6.9)

鳥取 東伯郡由良町大字大谷の9年生アカマツ林に発生, 6月5日発見。被害面積4町, 被害本数7,000本。BHC粉剤散布予定。

(中部山林事務所 6.5)

西伯郡名和町大字古御堂の5~20年生アカマツ林に発生, 5月20日発見。被害面積1町。一昨年マツクイムシの発生を見た地域でBHC粉剤を散布し駆除。

(西部山林事務所・熊田 甚市 6.5)

山口 大阪局山口署(阿武郡阿東町大字嘉年)官行造林地の37年生アカマツ林に発生。被害面積15町7反5畝, 被害本数約14,000本。風当たりが強く生育不良な林分に発生して葉を食害している。

(山口営林署 5.28)

福岡 熊本局福岡署福岡経営区50林班(柏屋郡和白町大字雁ノ巣)の30~50年生クロマツ海岸防風保安林に発生, 3月27日発見。被害面積57町, 被害本数57,000本。被害の甚だしきものは枯死に瀕している。目下駆除実行中。(福岡市・岩本 勝 5.9)

熊本局直方署直方経営区55, 56, 58, 59林班(山田市)の5~8年生アカマツ林に発生, 5月18日発見。被害面積15町5反4畝, 被害本数41,500本。薬剤駆除及び捕殺駆除を実施する。

(直方営林署・白石 力 6.1)

熊本 阿蘇郡一の宮町坂梨小学校校庭の15~50年生クロマツに発生, 5月10日発見。被害本数5本。BHC粉剤により駆除。

(県阿蘇事務所・岩本 幾雄 Ag. 6.3)

熊本局水俣署水俣経営区4林班ち小班(水俣市大字袋)のクロマツ林に発生, 5月20日発見。被害面積3町。BHC 3%粉剤を散布駆除。

(水俣営林署 6.9)

大分 熊本局中津署津房経営区4林班い, ろ, は小班(宇佐郡安心院町大字板場外1)の20年生アカマツ, クロマツ人工林及び天然林に発生, 5月13日発見。被害面積29町, 被害本数8,000本。被害は生長を阻害され1本当たり20匹前後で食害している。

(安心院町・佐保 孝夫 5.20)

○ マツカレハ

○ マツノキハバチ

栃木 塩谷郡喜連川町大字喜連川の3~10年生アカマツ天然林に発生, 5月13日発見。被害面積50町, 被害本数200,000本。被害甚だしく枯死寸前のものあり。防除

森林防疫ニュース

を行う予定である。

(矢板林業事務所・古橋 義雄 5. 14)

東京局笠間署笠間経営区60林班う、ね小班(芳賀郡益子町大字上大羽)の7年生アカマツ及びクロマツ林に発生、4月25日発見。被害面積2町。発見と同時にBHC粉剤を散布駆除をなす。

(盗子担当区・佐川 芳雅 5. 7)

茨城 東京局笠間署笠間経営区及び筑波経営区(西茨城郡七会村、新治郡八郷町)の6~30年生アカマツ林に発生、4月上旬発生。被害面積中害10町、微害20町。BHC 3%粉剤を散布駆除した。(局 6. 2)

長野 南安曇郡三郷村大字小倉の10~30年生アカマツ天然林に発生、5月28日発見。被害面積1町。被害は中害、本秋薬剤散布の予定。

(南安曇地方事務所・石川 豊治 6. 2)

鳥取 倉吉市大字大立、上福田の5~15年生アカマツ林に発生、5月2日発見。被害面積50町、被害本数150,000本。幼令のものにキハバチが多く、15年生のものにマツカレハが多い。DDT及びBHCにより駆除実施中。

(中部山林事務所・北村 幸男 Ag. 5. 15)

○ クスサン

茨城 新治郡出島村大字飯岡の5~30年生の栗林に発生、4月25日発見。被害面積150町、被害本数60,000本。養蚕地帯につき薬剤駆除の時期の選定が難かしいが約50町をBHC 3%により駆除、後はクリタマバチゴール採取と共に駆除を行っている。

(出島村・福地幸一郎 Ag. 5. 20)

山口 山口市宮野の20~30年生クリ人工林に発生、5月27日発見。被害面積5畝、被害本数30本。被害は軽微である。(県 5. 31)

○ キシタエダシヤク

熊本 阿蘇郡一の宮町大字宮地のみやまきりしまつにつじに発生、5月5日発見。被害面積50町、被害本数30,000本。被害地は阿蘇高丘の標高800~900mの所である。BHC 3%で駆除を行う。

(阿蘇事務所・岩本 幾雄 Ag. 6. 3)

○ マイマイガ

岩手 胆沢郡衣川村の5~7年生カラマツ人工林及び広葉樹天然林に発生、5月26日発見。被害面積268町。昨年被害80町で卵塊採取及びBHC粉剤を散布、本年も薬剤駆除予定。(県 6. 7)

和歌山 東牟婁郡古座川町、古座町の10~20年生ウバメガシ、カン類に発生、5月20日発見。被害面積不明。全域に亘り食害し場所により新葉を全く食い尽して枯木のようになっている。

(第9森林区・平 亮 Ag. 5. 28)

広島 比婆郡口和村の広葉樹林に発生、4月29日発見。被害は村内広葉樹及び採草地全面積に亘り5月下旬

頃より稀にも被害を与えている。

(口和村・山下 清人 6. 5)

双三郡君田村泉吉田の広葉樹林に発生、4月29日発見。被害面積500町。被害は山林のみならず畑、水田にまで及び食害の音が五月雨のように聞える。

(君田村・竹岡 哲夫 Ag. 6. 5)

双三郡布野村大字上布野、下布野に発生、6月5日発見。被害面積500町。被害はスギ、ヒノキ、アカマツを始め広葉樹を食害し標高300m以下東、南向が甚だしい。(布野村・荒谷 信昭 Ag. 6. 6)

庄原市に発生、6月4日発見。被害面積500町、被害本数100,000本。被害は各樹種を食害し一部は枯死の恐れがある。(庄原市・垣内 竜三 6. 7)

○ サラサヒトリ

宮城 桃生郡河北町大字針岡字原の9~10年生クスギ林に発生、5月31日発見。被害面積7畝、被害本数220本。全林に亘り芽を食害され枯木のようなのである。

(河北町・西条 正志 6. 6)

○ スギハムシ

鹿児島 薩摩郡東郷町大字藤川字戸屋の1~2年生スギ造林地に発生、5月8日発見。被害面積30町、被害本数120,000本。被害は4月下旬から集団的に発生枯死するものもあり林縁のヒノキにも加害している。BHC粉剤γ 1%により駆除実施。

(東郷町・竹之内典生 Ag. 5. 20)

○ カタビロトゲトゲ

新潟 南魚沼郡六日町大字四十日字平枯の6~26年生ナラ、クリ天然林に発生、5月23日発見。被害面積激害24町、中害25町。昭和27年発生BHCを散布駆除した。32年9月再発生を見たが駆除計画が整わず中止した。BHC 3%粉剤反当り3kg散布か燻煙剤による駆除予定。(県 6. 7)

○ スギカミキリ

神奈川 東京局平塚署松田町公有林野官行造林地(足柄上郡松田町大字総領)の28年生ヒノキ林に発生、5月30日成虫発見。被害面積5町3反3畝、被害本数57本、被害材積17石。前年度6月初旬にも発生し伐除したが生立木中にも不健全木には被害を受けているものと思われる。

(平塚担当区・石垣 春一 6. 9)

○ ヒメスギカミキリ

山形 西置賜郡小国町大字北小国の80~90年のスギに発生、5月18日成虫発見。被害本数39本、被害材積100石。家屋の近くに点在するスギに発生今春枯死したものである。多数の成虫を採取した。

(県・斎藤 謙 Sp. 5. 18)
(長井市・溝廷 芳吉 Ag.)

○ スギカミキリ

○ ヒメスギカミキリ

森林防疫ニュース

茨城 下館市大字小嶋の18年生スギ、ヒノキ林に発生、5月8日蛹、成虫発見。被害面積5畝、被害本数40本、被害材積6石。生長不良な林地の中央部より発生全樹木共に成虫の出た穴が無数にある。

(下館市・那花 栄市 Ag. 5. 12)

○ マツクロキボシゾウムシ

熊本 熊本局菊池署菊池経営区37林班い小班(鹿本郡菊鹿村大字上内田)の28~42年生アカマツ林に発生、5月10日幼虫発見。被害面積3反、被害本数245本、被害材積212石。伐倒剥皮焼却した。

(菊池営林署・大庫 美生 6. 9)

○ マツシラホシゾウムシ

熊本 熊本局水俣署水俣経営区48林班い小班(芦北郡芦北町大字大野)のクロマツ林に発生、5月24日発見。被害面積1畝、被害本数5本、被害材積14石。伐倒剥皮焼却した。

(署 6. 9)

○ キリノイボゾウムシ

山口 阿武郡旭村大字明木字野地の3年生キリ林に発生、5月12日発見。被害面積2反、被害本数70本。キリの新芽に付着して加害している。

(旭村・田中 満泰 Ag. 5. 13)

○ マツノキクイムシ

千葉 山武郡土気町大字上大和田のアカマツ林に発生、5月7日発見。被害面積5反、被害本数30本、被害材積50石。

(東金市・飯塚 甚吉 5. 13)

熊本 熊本局菊池署菊池経営区52林班い小班(鹿本郡鹿北村大字岩野)の50年生アカマツ林に発生、5月10日発見。被害面積5畝、被害本数13本、被害材積20石。伐倒剥皮焼却した。

熊本局菊池署菊池経営区51, 52林班(鹿本郡鹿北村大字岩野)の33~62年生マツ林に発生、5月10日発見。被害面積5反5畝、被害本数448本、被害材積642石。伐倒剥皮及びBHC乳剤による駆除をなす。

(菊池営林署・大庫 美生 6. 9)

○ ハンノキクイムシ

東京 南多摩郡八王子市大字上恩方の3年生クリ林に発生、5月発見。被害面積5畝、被害本数50本。主として植栽木に発生BHCにより防除する。

(南多摩地方事務所 5. 21)

長野 埴科郡戸倉町大字羽尾字扇平の1~3年生クリ林に発生、5月17日発見。被害面積2反、被害本数30本。地上1m位までの幹、枝の木質部に穿孔している。海拔高800mの200~500m離れた小団地に発生し全滅した小団地もある。

(坂城町・佐藤 春夫 Ag. 6. 9)

上高井郡高山村大字高井字戸夾地籍の2年生クリ林に発生、5月16日成虫発見。被害面積1町、被害本数190本。殆んど根元の部分に穿孔し心材部に入り枯死している。

(上高井地方事務所・古瀬 昭二 6. 10)

○ マツノコキクイムシ

福岡 熊本局中津署行橋経営区20林班い小班(築上郡椎田町大字岩丸)の58年生アカマツ、クロマツ天然林に発生、5月12日発見。被害面積2町、被害本数104本、被害材積126石。2・3年前より少量の被害発生があり現在駆除実施中。

熊本局中津署行橋経営区21林班い小班(築上郡椎田町大字岩丸)の63年生アカマツ、クロマツ天然林に発生、4月29日発見。被害面積7町、被害本数71本、被害材積174石。駆除実行中。

(上城井担当区・水篠 継男 5. 22)

○ マツノコキクイムシ

○ マツノキクイムシ

新潟 前橋局村上署村上経営区236林班ち小班(村上市大字松山)の50~100年生のマツ防風保安林に発生、5月8日発見。被害面積1畝、被害本数6本、被害材積8石。伐倒剥皮焼却した。

(村上担当区・南雲 重雄 5. 17)

○ マツノキクイムシ

○ キイロコキクイムシ

岡山 大阪局岡山署岡山経営区2林班ろ、ち小班(岡山市門田)の10~70年生アカマツ、クロマツ林に発生、5月末発見。被害面積5反、被害本数172本、被害材積47石。昨年度発生地附近である。

(岡山担当区・広瀬 茂彦 6. 10)

○ キクイムシ科の1種

○ ゾウムシ科の1種

京都 大阪局京都署京都経営区69林班い小班(宮津市大字万年)の80年生アカマツ天然林に発生、5月17日発見。被害面積9畝、被害本数44本、被害材積47石。形成層にゾウムシの幼虫及びキクイムシの喰痕を見る。

(宮津担当区・二木 通雄 5. 30)

○ キイロコキクイムシ外5種

熊本 熊本局水俣署水俣経営区2林班い小班(水俣市大字袋)のクロマツ林に発生、5月25日発見。被害面積1畝、被害本数4本、被害材積62石。伐倒剥皮焼却をなす。

(水俣営林署 6. 9)

○ マツノキクイムシ

○ マツノコキクイムシ

○ マツキボシゾウムシ

○ マツノマダラカミクリ

千葉 東京局千葉署千葉経営区118林班は、ね小班(君津郡大佐和町)の120年生クロマツ保安林に発生、4月発見。被害面積32町2反7畝、被害本数633本、被害材積1,233石。伐倒剥皮焼却する予定である。

(局 6. 2)

○ 松くい虫

山口 大阪局山口署山口経営区2林班い小班(長門市大字洪水大ノ郷)の27年生アカマツ林に発生、4月26日

森林防疫 ニ ュ ー ス

発見。被害面積3町2反7畝，被害本数581本，被害材積163石。

(署 5.7)

熊毛郡平生町曾根，佐賀の20～70年生マツ林に発生，32年8月1日～10月31日発見。被害面積5町5反2畝，被害本数540本，被害材積621石。

上関町室津・長島・祝島・八島の20～60年生マツ林に発生，32年8月1日～10月31日発見。被害面積33町4反9畝，被害本数555本，被害材積2,359石。

(平生町・今村 市作 Ag. 5. 15)

- マツカレハ
- マツノコマダラメイガ
- 松くい虫

鹿児島 熊毛郡中種子町・南種子町のクロマツ林に発生，5月発見。被害面積6,000町，被害本数70,000本，被害材積33,000石。

(中種子町・船川 五男 Ag. 5. 7)

- カラマツアカハバチ

群馬 利根郡水上町大字藤原字上ノ原の31年生カラマツ林に発生，5月27日発見。被害面積30町，被害本数20,000本。新葉を食害し葉片が地表に累積している。

(沼田林業所 5. 31)

- マツノミドリハバチ

和歌山 東牟婁郡の海岸地帯の2～4年生クロマツ林に発生，3月10日発見。被害面積約100町。被害木は丸坊主となつている。

(第9森林区・平 亮 Ag. 5. 8)

鳥取 日野郡溝口町大字金屋谷の2～6年生アカマツ林に発生，4月28日発見。被害面積5町。幼令林の葉を幼虫が群生して食害している。

(江府町・小峰 薫 Ag. 5. 12)

- マツノキハバチ

宮城 牡鹿郡牡鹿町大字鮎川，網地の3～8年生アカマツ林に発生，5月7日発見。被害面積3町。針葉上に5～10匹群がり食害している。

(県・早坂 義雄 Sp. 5. 12)

茨城 北茨城市華川町大字小豆畑字車置のマツ林に発生，5月17日発見。被害面積3反，被害本数1,800本。樹令の高いものは被害が僅少で3～4年生のものに激害が見られる。

(県 5. 22)

長野 小県郡傍陽村字穴沢の1～5年生アカマツ天然林に発生，5月30日発見。被害面積1町，被害本数約2,000本。幼令木の新葉を食害している。DDTを散布して駆除した。(上小地方事務所・西沢松太郎 6. 2)

南安曇郡安曇村大字稻核の10年生以下アカマツ林に発生，5月24日幼虫発見。被害面積20町。被害は中害。

(安曇村・斎藤 利隆 Ag. 5. 27)

岐阜 加茂郡八百津町の1～10年生アカマツ林に発生，4月20日発見。被害面積100町，被害本数10,000本。

(八百津町・平塚 清三 Ag. 5. 15)

三重 松坂市大字上蛸路の4年生アカマツ，クロマツ人工林に発生，4月27日発見。被害面積2反。DDT粉剤を散布駆除した。

飯南郡飯高町大字森字どうどの5年生アカマツ人工林に発生，4月15日発見。被害面積中害2反。BHC粉剤を散布駆除した。

多気郡宮川町大字明豆字定ノ谷の4年生クロマツ人工林に発生，4月28日発見。被害面積中害2畝。除虫菊乳剤を散布駆除した。

度会郡大宮町大字古里，野原及び度会村大字収戸，広尾の5年生アカマツ，クロマツ林に発生，5月2日発見。被害面積大宮10町。度会村3町。1部BHCを散布したが，徹底的駆除を行う予定である。

(県 5. 14)

滋賀 高島郡高島町大字拝戸の3～10年生アカマツ林に発生，5月12日発見。被害面積10町。

(湖西産業事務所・田中 茂 5. 22)

大阪局大津署大津経営区4林班い，と小班(高島郡高島町)の10～15年生アカマツ林に発生，5月14日発見。被害面積3町。BHC散布予定。

(大津営林署 5. 24)

鳥取 倉吉市及び東伯郡大栄町，由良町，東伯町，関金町の3～10年生アカマツ，クロマツ林に発生，5月1日発見。被害面積激害15町，中害160町，微害165町6反。BHC1%粉剤を町当り30kg散布する。駆除面積61町4反。

西伯郡岸本町大字小野の7～15年生アカマツ天然林に発生，5月10日発見。被害面積激害5町。BHC粉剤γ1%を散布駆除する。

日野郡溝口町二部の8年生アカマツ人工林に発生，5月10日発見。被害面積激害10町。BHC粉剤γ1%を散布駆除する。

日野郡溝口町金屋谷地内の10年生以下のアカマツ林に発生，4月28日発見。被害面積激害25町。BHC1%粉剤を散布駆除する。

(県 6. 7)

島根 大阪局松江署朝山経営区3林班い，ろ小班朝山官行造林地(出雲市乙立町)の5～8年生アカマツ人工林に発生，5月20日発見。被害面積13町，被害本数8,000本。谷筋から中腹にかけて群状に食害，枯死3,000本。生育阻害5,000本。

(今市担当区・安田 博一 5. 22)

山口 玖珂郡美和町大字佐坂の2年生アカマツ人工林に発生，5月5日発見。被害面積2町，被害本数2,000本。

(県・堀江 哲三 Ag. 5. 14)

岩国市大字荒瀬谷の6年生アカマツ林に発生，5月10日発見。被害面積5反，被害本数300本。

(岩国市・安村 開道 Ag. 5. 14)

玖珂郡美川村の3～6年生アカマツ林に発生，5月10日発見。小面積の被害が各所にみられる。

(美川村・杉原 一人 Ag. 5. 21)

森林防疫ニュース

阿武郡福栄村大字福井下の5～6年生アカマツ人工林に発生、5月7日発見。被害面積1畝。BHC粉剤を散布駆除した。(福栄村・山板 昭重 Ag. 5. 15)

高知 幡多郡大正町大字木屋ヶ内の1～2年生アカマツ林に発生、5月2日発見。被害面積1町、被害本数2,500本。群棲して針葉を食害している。

(大正町・中平健次郎 5. 10)

○ クリタマバチ

宮城 白石市の1～50年生クリ天然林に発生、4月21日発見。被害面積3,270町。昭和32年より被害発見。

(白石市・猪野今朝松 Ag. 5. 1)

白石市小原の1～50年生クリ林に発生、5月発見。被害面積6,000町。

(七ヶ宿町・布田 利雄 Ag. 5. 13)

伊具郡丸森町大字筆甫、平松、古田、北山の5～20年生クリ林に発生、6月10日発見。被害面積2,000町、被害本数50,000本。(丸森町・佐藤昭一郎 Ag. 5. 14)

白石市福岡の2年生以上のクリ林に発生、5月18日発見。被害面積2,500町。ゴール採取焼却する。

(白石市・伊藤 壮吉 5. 21)

茨城 真壁郡協和村大字門井、細田の5～20年生クリ林に発生、5月8日発見。被害面積5町、被害本数2,000本。(下館市・外岡 利春 5. 12)

西茨城郡笠間町大字泉山根の10～20年生クリ林に発生、5月7日発見。被害面積5町、被害本数1,500本。今秋伐倒予定。(岩間町・袴塚 正 Ag. 5. 12)

東茨城郡小川町、美野里村の8～10年生クリ林に発生、5月23日発見。被害面積60町、被害本数30,000本。ゴール及び枝条の焼却をなす。

(美野里村・榎谷喜代実 5. 23)

群馬 藤岡市上日野字坂野の30年生クリ林に発生、5月10日発見。被害面積1畝、被害本数2本。被害枝葉焼却。(藤岡林業事務所・日野友次郎 5. 10)

高崎市の15年生クリ林に発生、5月14日発見。被害面積3町、被害本数1,500本。被害樹は栽培グリであり、ゴールが鈴なりになつている。

(高崎林業事務所・唐沢 治郎 5. 17)

千葉 山武郡土気町大字大木戸、大野のクリ林に発生、5月19日発見。被害面積1反、被害本数30本。

(土気町・片岡 歩 6. 4)

山武郡成東町大字上横地のクリに発生、5月20日発見。被害本数3本。山武郡下に於て始めての被害である。

(成東町・長谷川 馨 6. 4)

新潟 東頸城郡奴奈川村大字福島、室野の4～8年生柴栗林に発生、5月14日発見。接木指導中に2カ所において発見したもので附近一帯のクリは被害を受けているものと考えられる。

(松代町・滝沢 与吉 Ag. 5. 15)

長野 南安曇郡安曇村大字稿場の5～40年生クリ林に発生、5月29日発見。被害面積50町。被害程度軽微、防除計画及び被害調査中。

(南安曇地方事務所・石川 豊治 6. 2)
・斎藤 利隆 Ag.

埴科郡屋代町大字森字岡地の10年生クリ林に発生、5月23日発見。被害面積3反、被害本数20本。

(坂城町・佐藤 春夫 Ag. 6. 9)

岐阜 吉城郡宮川村大字丸山外の15～60年生クリ林に発生、5月1日発見。被害面積約6町、被害本数1,300本。2年前より駆除に努めているが被害は拡張してゆく。(第71森林区・道下 信夫 Ag. 5. 9)

吉城郡神岡町大字寺林に発生、5月12日発見。被害面積2町、被害本数250本。

(神岡町・村下 邦之 Ag. 5. 21)

吉城郡国府村大字西門前、東門前の1～20年生柴クリに発生、5月29日発見。被害面積約1町。天然薪炭林中に点在するものに発生している。

(国府村・善名伊右衛門 Ag. 5. 30)

滋賀 高島郡高島町の2～50年生クリ林に発生、5月10日発見。被害面積17町。

(湖西産業事務所・田中 茂 5. 22)

○ クヌギタマバチ

山口 山口市大字秋穂二島の5～6年生クヌギ天然林に発生、5月24日発見。被害本数10本。枝条部に虫えいを形成している。虫えいの採取焼却を行う。

(県 5. 31)

○ スギタマバチ

宮城 玉造郡鳴子町大字鬼首字荒場の5年生スギ林に発生、32年11月7日発見。被害面積10町、被害本数30,000本。5月9日BHC 1%を反当6～7kg散布する。(第26森林区・加藤 悟郎 Ag. 5. 13)

静岡 東京局気田署気多経営区168, 169林班(周智郡春野町大字豊岡)の5～8年生スギ林に発生、4月10日発見。被害面積25町。4月下旬～5月上旬にBHC 3%を町当り30kg散布した。

(気田担当区・佐藤 左内 5. 19)

○ スギノハダニ

栃木 塩谷郡塩原町大字関谷の1～6年生スギ造林地に発生、5月9日発見。被害面積10町、被害本数30,000本。被害中害で樹勢がおとろえている。

(矢板林業事務所・土屋己喜雄 5. 14)

塩谷郡喜連川町喜連川、金枝、鹿子畑の1～5年生スギ造林地に発生、5月13日発見。被害面積30町、被害本数90,000本。被害激害。

(矢板林業事務所・古橋 義雄 5. 14)

神奈川 東京局平塚署松田町官行造林3林班に小斑(足柄上郡松田町大字総領)の6年生スギ林に発生、6月5日発見。被害面積1町3畝、被害本数約900本。梢頭部

森林防疫 ニュース

に加害し生長が停止している。

(平塚市・石垣 春一 6. 9)

岐阜 郡上郡八幡町大字美山、開笹の2年生スギ造林地に発生、5月19日発見。被害面積3反、被害本数1,000本。葉が黄変している。

(第23森林区・蒲 録郎 Ag. 5. 24)

名古屋局岐阜署美濃経営区44林班い小班(加茂郡七宗村)の昭和27年植栽スギ林に発生、5月19日発見。被害面積2反3畝、被害本数420本。被害地は施肥試験地で生長も良く諸害に対する抵抗力が弱くなったものと考えられる。被害木及び枝を焼却した。

(上麻生担当区・真野宗四郎 6. 9)

三重 尾鷲市曾根字中崎の8年生スギ林に発生、5月15日発見。被害面積1町、被害本数6,000本。針葉が黄変し生長が害されている。ネオサツピランで防除。

(尾鷲市・山城 章 5. 26)

一志郡美杉村大字川上の4年生スギ林に発生、6月3日発見。被害面積1町5反、被害本数10,000本。ネオサツピラン2,000倍液にて防除。

(美杉村・岡田 進雄 Ag. 6. 5)

一志郡嬉野町大字森本の3~5年生スギ林に発生、6月5日発見。被害面積40町。生長が止まっている。ネオサツピラン、DN剤により駆除する。

(久居林業事務所・清水 郁生 Ag. 6. 7)

一志郡美杉村大字八知の3~6年生スギ林に発生、6月5日発見。被害面積3町。谷間の被害が特にひどい。ネオサツピラン1,000倍液を使用駆除した。

(久居林業事務所・鈴木 治 Ag. 6. 7)

奈良 生駒郡三郷村大字勢野の5年生スギ林に発生、5月下旬発見。被害面積1反。上長生長が完全に止り黄化している。マラソン粉剤で駆除予定。

(県・村田 武彦 Sp. 6. 8)

鳥取 八頭郡河原町大字布袋の5年生スギ林に発生、5月7日発見。被害面積2町、被害本数1,000本。被害樹の生長が衰えやや褐色を帯びている。

(郡家町・平尾 二郎 5. 9)

日野郡根雨町大字三土の5年生スギ林に発生、5月19日発見。被害面積3町、被害本数約2,100本。生長を阻害され煤がかつているように見える。

(江府町・長岡 章 5. 20)

日野郡伯南町大字霞字牛の尾の3年生スギ人工林に発生、5月16日発見。被害面積中害3町、微害4町。サツピラン又はネオサツピラン1,000倍液を散布駆除した。

(県 5. 31)

山口 徳山市大字戸田の3~4年生スギ林に発生、5月10日発見。被害面積2反、被害本数450本。ネオサツピラン散布予定。(徳山市・福田 功 Ag. 5. 21)

高知 高知局安芸署安芸経営区4林班い小班(安芸市大字奈比賀小川山)の5年生スギ人工林に発生、4月15

日発見。被害面積1町、被害本数3,000本。経費僅少のため重点的に薬剤散布により駆除。

(安芸担当区・小野川末喜 5. 9)

宮崎 熊本局高岡署高岡経営区3林班い小班(東諸県郡高岡町大字上倉永八久保)の5年生スギ林に発生、5月10日発見。被害面積2町、被害本数3,000本。生長を阻害されている。(穆佐担当区・池田 照夫 5. 24)

○ 昆虫の害(虫名同定中)

青森 青森局佐井署佐井経営区120林班い小班(下北郡佐井村大字長後)の海岸線一帯の広葉樹林に発生、5月20日発見。被害面積約500町。ナラを主としシナノキ、アオダモ等の葉を食害し網目状にする。

(牛滝担当区・藤田 哲夫 6. 2)

京都 綾部市一町の3年生以下のクリに発生、5月7日発見。被害本数2,000本。心材まで穿孔し枯死させる。黒色甲虫で長さ1~1.5mm。

(綾部事務所・和泉 均美 Ag. 5. 15)

獣害

○ ムササビ

宮城 本吉郡志津川町大字入谷字桜沢の15年生スギ林に発生、3月20日発見。被害面積1反、被害本数27本、被害材積37石。梢頭部約2~3mの間皮を剥いでいる。このため梢端部は枯れている。

(志津川町・遠藤 正志 Ag. 5. 18)

○ ノウサギ

石川 県下各地に発生、その被害面積、被害本数、ノウサギ捕獲数は次のとおり。

加賀市15町7反、26,225本、131頭。江沼郡山中町57町、115,100本。小松市71町7反、86,000本、918頭。能美郡辰口町6町、3,700本、70頭。石川郡鶴来町30町、30,000本。河内村8町、4,000本。鳥越村5町、4,000本。白峰村5町、4,500本。金沢市2町、5,100本、700頭。羽咋郡押水町6町、2,550本、103頭。志雄町85町、13,000本、30頭。志賀町26町、5,000本、50頭。高浜町35町、7,500本、60頭。富米町20町、7,500本、30頭。七尾市78町、13,500本、437頭。鹿島郡田鶴浜町16町、5,500本、80頭。中島町12町、9,000本、296頭。鳳至郡能都町5町、12,500本、60頭。穴水町60町、179,500本、286頭。門前町35町、44,800本、140頭。輪島市74町2反、83,800本、1,441頭。鳳至郡柳田村7町、17,000本、283頭。珠洲郡松波町6町、4,250本、46頭。珠洲市16町、11,600本、331頭。計681町6反、695,625本、5,492頭。激害358町4反、中害170町4反、微害152町8反。

(県 5. 23)

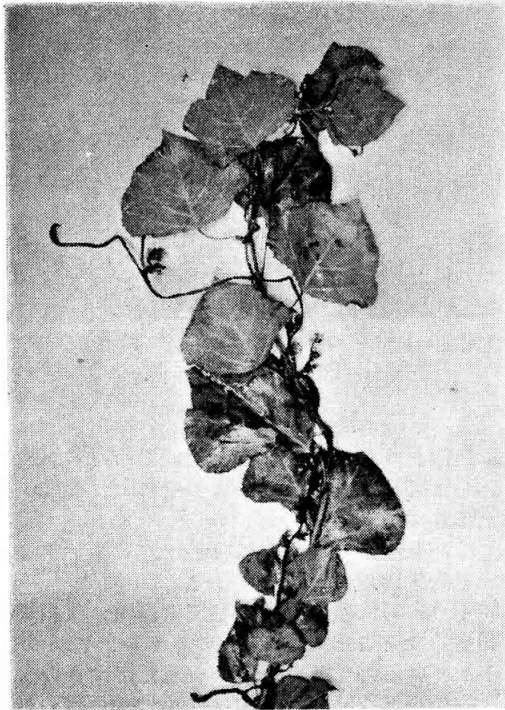
長野 長野局飯田署上村川通り官行造林地(下伊那郡上村)1~4年生カラマツ林に発生、5月14日発見。被害面積200町、被害本数20,000本。

(梨元担当区・高坂 忍 5. 15)

解 説

2, 3 の 顯 花 植 物 に よ る 樹 木 の 被 害

佐 藤 邦 彦



第 I 図 ポプラに寄生したネナシカズラ

ポプラのネナシカズラによる被害

昨年の 8 月 30 日に秋田鉄道管理局から、秋田営林局員を通じてポプラの病害を鑑定してほしいと依頼があつた。

この被害は青森県下の五能線の鱒ヶ沢駅付近のポプラのさし木苗に発生し、枯れかかつたものもあるとのことであつた。

さつそく届けられた標本をみると、ネナシカズラ *Cuscuta japonica* CHOIS の寄生したものであつた。ポプラの種名は *Populus nigra* L. のようであつた。

ネナシカズラはネナシカズラ科に属する 1 年生草本植物で、1 葉もなく、茎は針金状のつるをなす。種子は地上で発芽してただちに寄主植物にか

らみついて、吸根によつて寄主の組織に侵入して養分を吸収する。つるは黄色をおび、かつおうおう褐紫色を呈する。稀につるの緑色を呈する変種があつてミドリネナシカズラと称する。

この植物は草本、木本をとわずいろいろな植物に寄生するが、秋田地方の木本ではニセアカシア、ヤナギ類、ウコギ、タラノキなどに多い。稀にカラマツやスギ苗に寄生したものもみたことがあるが、その被害は問題にするほどのものではなかつた。

ポプラに対する被害は野生のヤナギ類がごく普通におかされていることから考えて当然ありうることではあるが、有用樹種に対する被害は珍しい例なので記録しておくこととした。

なおこの防除については、つるのまだよく成長しないうちに、除去してやるよりほか方法がなからう。この場合途中から切れて残れば、まもなく再び繁殖するからていねいに除いてやる必要がある。(第 I 図)

ヤドリギの寄主の種類

ヤドリギはいろいろの樹木の幹や枝上に寄生する雌雄異株の常緑の小灌木であり、各地で認められる。わずかの寄生では被害はあまり問題にするほどのことはないが、時にはひどく寄生して寄主の成育を阻害したり、寄生をうけた部分から風や雪の害で折れることもある。

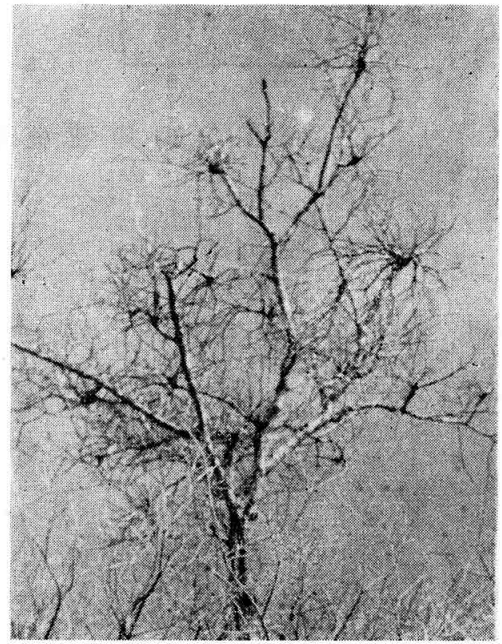
わが国に産するヤドリギ類 (*Viscum*) にはヤドリギ *Viscum album* L. var. *Lutescens* MAKINO およびアカミノヤドリギ *V. album* L. var. *rubro-aurantiacum* MAKINO がある。これら 2 種類の差は前者の果実が淡黄色に熟すのに対して後者は柑赤色を呈することで、そのほかの点では識別できない。

これらのヤドリギはわが国では、ニレ、ナラ、カツワ、ハンノキ、エノキ、ウメ、サクラ、クリ、カイドウ、サンザシなどにもつとも普通に寄生すると称されている。枘内吉彦氏 (1954) は 10 数種以上の寄主をおかすと称べている。

ドイツのヤドリギは 50 余種の樹木に寄生し、なかんずくカツワにもつとも普通だという。



第II図 ミズナラに寄生したアカミノヤドリギ



第III図 ホザキノヤドリギの激害をうけたミズナラ

TUBEUF氏(1906)はヤドリギの寄生性について大規模な試験を行い、(1) 広葉樹ヤドリギ、ただちにほかの広葉樹に移植できるもの、(2) モミヤドリギ、*Abies* (モミ属) に移植できるが *Pinus* (マツ属) に移植できないもの、(3) トウヒヤドリギ *Pinus* (マツ) 稀にドイツトウヒに発生し、モミや広葉樹に移植できないものの3つに区分した。

これらの3種は形態的にはわずかの差しかなく、ただ(1)、(2)は(3)よりも葉が広大で、また果実および種子にわずかの差異がある。(3)はBOISSIERおよびREUTER両氏の *Viscum Laxum* に相当し、またWIESBAUER氏は(1)を *V. album* (2)を *V. austriacum* とし、これをマツとモミの2品種とした。

わが国のヤドリギとアカミノヤドリギは(1)の *V. album* の変種に相当するわけである。

筆者は昨年秋田県と山形県下におけるヤドリギの寄主を明らかにしたいと考えて、機会あるごとに記録しておいた結果は次のとおりであった。

ミズナラ (110)、コナラ (10)、クリ (30)、ブナ (18)、ナシ (日本在来種) (20)、コゴメヤナギ (8)、オノエヤナギ (1)、ウメ (3)、オニグルミ (6)、オオバボダイジュ (3)、ヤマハンノキ (4)、カツラ (1)、ダケカンバ (1)、ヤチダモ (2)、エドヒガンザクラ (1)。

注：()は寄主の本数を示した。

以上のように15種の寄主が明らかにされた。これらと従来知られているものを加えれば20種以上に達する。

とくに被害の多いものは林地ではミズナラやクリで、人家附近ではナシである。

昨年11月に秋田県仙北郡田沢湖町、玉川方面で観察したところでは、アカミノヤドリギが多く、ヤドリギはその1/5以下認められたにすぎなかつた。被害のとくに多い林況は採草地や牧野内のナラやクリの疎林や孤立木、林縁などである。そして密林には少ない。これはヤドリギが陽光の要求度が大きいことと関係があると思われる。

ヤドリギと似たもので冬に落葉し、穂状に花をつけるホザキノヤドリギ *Loranthus Tanakae* Fr. et Sav. は秋田、山形地方では分布が稀であり、両県下とも数カ所の産地しか知られていない。秋田県下では田沢湖方面と八幡平方面に産するだけである。しかし数年前秋田県仙北郡角館町高屋のミズナラにかなりひどい被害例を認めたことがあり、梢端部が枯死したものがあつた。本種の寄主はクリ、ミズナラ、ナシ、ウメ、サクラなどがあげられているが、当地方ではミズナラ以外の寄主はみつからない。(第II図、第III図)

(林業試験場秋田支場)

マツ類を食害するハバチ

—とくにマツノキハバチとマツノミドリハバチについて—

加藤 幸雄

森林防疫ニュースが発刊されてからは、いながらにして各地の被害状況を知ることが出来るようになった。数多い被害報告のなかにはマツカレハやマツクイムシ等のように既に常連になった幾種かの害虫があつて、毎号のようにその被害報告を見ることが出来る。ここで述べるハバチ類も殆んど毎号のように被害が報告されているが、マツカレハやマツクイムシ程には形態・経過習性等を熟知されていないようなので、ここに概要を紹介して参考に供することとした。なお、本稿を草するに当り、種々ご教授に与り、また資料を提供していただいた東大日塔教授、林試小山技官その他の諸氏には衷心より謝意を表する。

1. マツノキハバチ (マツハバチ科)

Neodiprion sertifer GEOFFROY

分 布

本州、四国、九州、朝鮮、シベリヤ、ヨーロッパ

加害樹種

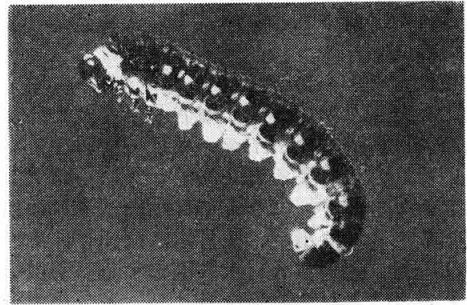
アカマツ、クロマツ、ヒメコマツ、ハイマツ、
其他外国産マツ類

形 態

—幼虫— 成長した幼虫は体長 20mm 内外。胴部は略々円筒形、3個の胸環節及び9個の腹環節と尾節よりなる。各胸環節は4個の小環節よりなり、第1・2・4小環節には1列の小刺棘を生ず。胸脚は5節よりなり、各節には小剛毛を刺生する。腹環節は夫々6個の小環節よりなり、第1・3・6小環節には小刺棘を列生する。第1・9環節を除き各節に1対の腹脚を有し、尾節には1対の尾脚を有す。気門は第1胸環節及び第1~8環節に存す。

頭部正面は略々円形、光沢ある黒色、頭蓋には全面に黒色小刺棘を粗生し、側面下方の左右に半球形に突出した1対の黒色の単眼を有す。触角は単眼の下から生じ3節からなる。

体色は若令期には概ね淡黄緑色、キチン化した頭部及び胸脚の外表面は淡黒褐色。成長すれば、頭部及び胸脚の外表面は黒色、光沢を有し、体の側面及び背面は黒褐色。背線、側線、気門線等の縦線は線状或は破線状に黄緑色を呈す。終令幼虫では



第I図 マツノキハバチの幼虫

頭部は褐色、体は淡赤紫色をおびて略々透明となり、隆起部及び背線の両側だけ黒色を呈す。

—成虫— 雌 体長9mm内外、体全体黄褐色を呈するが、中胸小楯板の後縁及び胸背板・腹背の基部は黒色。頭は短く幅広。複眼は黒色。触角は24節、柄節及び梗節(基部の2節)は黄褐色円筒形、鞭節(第3節以下)は黒色、各節に長短2種の小突起を有す。翅は淡黄褐色透明で翅脈は黄褐色。脚は赤褐色。

雄 体長8mm内外。体全体黒色。触角は黒色で柄節及梗節は円筒形、鞭節は両羽毛状。翅は淡灰色透明、翅脈は黒褐色。脚は暗黄褐色を呈す。

経過習性

年1回発生し好んで幼令木を加害する。幼虫は4月上~下旬に孵化し、30~40頭が1針葉に数頭宛群棲して針葉の周辺部を食い中肋を糸状に残す。3令以後は食葉量も多くなり、中肋を残さず殆ど全葉を食う。幼虫期間は26~31日、平均28日間でこの間に4~5回脱皮して営繭する。即ち雄は5令で、雌は6令で営繭する。5月上旬~6月上旬に営繭し、繭内で老熟幼虫のまま9月上旬~10月中旬に至り、この間に蛹化する。営繭場所は林床の落葉・落枝等に多く、樹上で営繭する例は少い。蛹期間は10月上旬の例では4~12日間。羽化した成虫は直ちに脱出することなく、さらに4~8日間、多くは数日間繭内に蟄居し、しかるのち繭の1端を円形に嚙切つて脱出する。従つて成虫の羽化脱出期間は9月下旬~10月下旬におよぶ。繭は灰褐色長楕円形、長径6.0~9.8mm、短径2.3~4.1mm。羽化脱出した成虫は1・2日中

に交尾を終え、其後さらに1～3日の間に産卵を終了するが、一方交尾の有無に拘らず産卵しうる。即ち本種は単性生殖も可能である。卵は枝梢先端に近い針葉組織内に産下される。即ち雌は産卵管で針葉稜状部を切開し、葉肉内に1卵宛略等間隔に1列に産卵する。1針葉上の産卵数は1～28個で7～8個の場合が多い。成虫の寿命は出現後1週間内外、1雌の産卵数は10～100粒で40～60粒が多い。産下された卵はそのまま越冬し翌年にいたる。

本種は古くからアカマツ・クロマツの害虫として知られて来たが、最近、奥谷・伊藤両氏は加賀白山及び木曾御岳のハイマツを加害することを報じている。これによると、ハイマツのものは1世代に2ケ年を要す。即ち1年目は卵越冬し、幼虫は翌年7～8月に出現、8月末に営繭し、そのまま再び越冬、翌々年8月末に羽化する。幼虫は平地のものとは著しく色彩を異にし、老令幼虫ではハイマツのものは緑色ないし黄緑色で、わづかに亜背線及び側線に黒い縦の(体の長軸に平行)縞を生ずる。従つてアカマツのものは1見黒く見えるが、ハイマツのものは緑色に見える由である。

2. マツノミドリハバチ (マツハバチ科)

Nesodiprion japonica MARLATT

分 布

本州、四国、九州、台湾、北アメリカ

加害樹種

アカマツ、クロマツ、カラマツ、ヒマラヤスギ
其他外国産マツ類

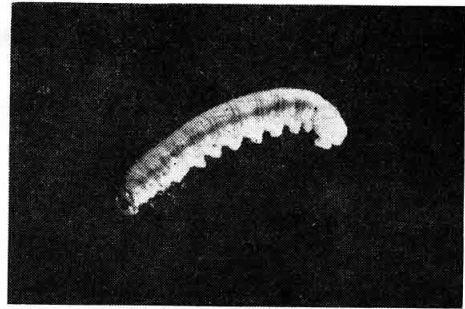
形 態

一幼虫— 成長した幼虫は体長20mm内外。胴部は略々円筒形。3個の胸環節及び9個の腹環節と尾節よりなる。各胸環節は5個の小環節よりなり、第2・3・4小環節に微小黒色刺状突起を列生する。胸脚は5節及び爪よりなり、各節には剛毛を刺生する。腹環節は各々6個の小環節よりなり、第1・2・4小環節には微小黒色刺状突起を有す。第1・9腹環節を除き各節に1対の腹脚を有し、尾節には1対の尾脚を有す。気門は第1胸環節及び第1～8腹環節に存す。

頭部正面は略々円形にして帯褐黄色、単眼から頭頂にかけて大形黒斑を有す。単眼及び眼板を除き全体に小剛毛を粗生する。

体全体光沢ある緑色で、両端は多少黄色味をおび、背線及び気門上線に淡灰色の縦線が走る。体下面は淡緑色を呈す。

一成虫— 雌 体長7～8mm内外。体全体黒色。中胸小楯板は全体又は大部分黄白色。翅は微かに暗色を呈し透明、翅脈は前縁脈及び縁紋が黄



第II図 マツノミドリハバチの幼虫

褐色を呈する他全部黒褐色。脚は概ね黒色なるも、転節、腿節末端、脛節及び跗節は黄白色。頭部及び胸部に存する点刻は中胸では細浅、中胸前側板では密にして大。触角は21節からなり黒色、鞭節には夫々2本の長突起を有し両羽状を呈す。

雄 雌に酷似するが中胸小楯板は黒色、触角の羽状突起は著しく発達する。

経過習性

幼虫は年2回発生し、好んで幼令木を加害する、1回目の幼虫は6～7月から発生し、常に群棲して食害する。針葉を食う状態はマツノキハバチと同じであるが、この時期の幼虫は主として旧葉を食う。成長した幼虫は8月頃から針葉間又は梢頭部に灰褐色長楕円形の繭を作り蛹化する。蛹期間は2週間前後。9～10月に至り2回目の成虫が発生し針葉の組織内に産卵する。この時期の卵期間は1週間前後。孵化した幼虫は群棲して食害し、主として当年に伸長した針葉を食う。成長した幼虫は11月頃から針葉を離れ、粗皮の割目や地上の落葉・雑草等の地被物中に潜入して営繭し、繭内で幼虫のまま越冬する。

越冬幼虫は翌年4月中～下旬頃から蛹化し始め、次で第1回目の成虫の発生をみるにいたる。

防除法

既述した2種の防除法について詳細を論じた報文はまだ無いようである。従つて近似種に対する防除法を参考にして、当面考えられる二三の方法を記述する。

1) 集団幼虫の捕殺。

2) マツノクロホシハバチ、カラマツアカハバチ、オオアカズヒラタハバチに対する試験成績から、当面次の方法が考えられる。

(a) BHC・ γ ・1～3%粉剤をヘクタール当り30～50kg散布する。

各地の国・県有林ではすでに実施しているが、その試験成績は聞いていない。恐らく当面実施出来る最良の方法であろう。

(b) BHC 燻煙(γ 150gr)をヘクタール当り

2～3筒使用する。

林況、主風の方向、風速等を充分検討して実施し、充分被煙すれば恐らく効果はあると思われる。

(a)(b) いずれの方法も幼虫の若令期を選んだほうが良いようである。

(c) *Virus* の病原体を粉剤又は水溶液として散布する。本邦では未だ今後の問題として残されているが、Balch 等によれば、*Abies* の害虫 *Gilpinia hercyniae* の多角体病にかかつたものの抽出液を Newfoundland の森林に散布して好成績をあげている。之等の研究はカナダ、ドイツで盛んであるが、本邦でも今後の研究が期待されている。

3. その他のハバチ類

本邦でマツ類 (*Pinus* 属) を食害するハバチは上記 2 種の他次の各種が知られている。

ヒラタハバチ科 PAMPHILIIDAE

アカズヒラタハバチ *Acantholyda erythrocephala* LINNAEUS

ニホンヒラタハバチ *A. nipponica* YANO et SATO

アトグロヒラタハバチ *A. posticalis* MATSUMURA

マツノイトカケハバチ *A. sasakii* YANO

マツヒラタハバチ *Cephalcia nigricoxae* MATSUMURA

タカネヒラタハバチ *C. variegatus* TAKEUCHI

マツハバチ科 DIPRIONIDAE

マツノクロホシハバチ *Diprion nipponica* ROHWER

ハコネマツハバチ *Gilpinia hakonensis* MATSUMURA

Monoctenus decoratus TAKEUCHI

文 献

- 1) 藍野祐久：原色病虫害図鑑，虫害，27—28，(1958)
- 2) 青木 清：昆虫病理学，83—85，439，(1957)
- 3) BERLAND, L: Faune de France, 47, 376—380, 433, (1947)
- 4) CUSHMAN, R. A: Ins. Mats. IX, (1), 32—38, (1937)
- 5) 日高義実：管内に於ける造林試験及び調査の概要，後編，86—90 (1932)
- 6) 伊藤武夫：御岳研究，自然編，第5編，動物，469—475，(1958)
- 7) 生野 誠：御料林，(95)，23—32，(1936)
- 8) ————：日林誌，XVIII, (5)，22—26，(1936)
- 9) 加辺正明：森林防疫ニュース，VI, (9)，11，(1957)
- 10) KITAO, Z: Jur. Coll. Agr. XI, (2)，151—191, (1931)
- 11) 小山良之助・山田房男：森林防疫ニュース，(17)，

10—11 (1953)

- 12) 松村松年：大日本害虫全書，後編，286—290，(1921)
- 13) ————：大日本害虫図説，954—956，(1932)
- 14) 松下真幸：森林昆虫学，183—188，(1943)
- 15) 水戸野武夫：台湾の山林，(117)，149，(1936)
- 16) 新島善直：日本森林保護学，上巻，(1902)
- 17) ————：森林昆虫学，264—272，(1913)
- 18) ————：新編森林保護学，上巻，(1923)
- 19) 日本農薬：森林病虫害便覧，針葉樹の害虫，57—62 (1956)
- 20) 日塔正俊・小田久五・加藤幸雄：林試研報，(79)，15—39，(1955)
- 21) 尾尻勝太郎：大阪営林局報，(28)，12—17，(1940)
- 22) 奥谷禎一：学生版日本幼虫図鑑，マツハバチ科，211—212，(1951)
- 23) OKUTANI, T: Sci. Rep. Hyogo Uni. Agr. I, (2), Ser. Agr. 75—80, (1954)
- 24) ————：Sci. Rep. Hyogo Uni. Agr. II, (2), Ser. Agr. Biol. 1—2, (1956)
- 25) 奥谷禎一・伊藤武夫：New Entomologist, VI, (4), 1—3, (1954)
- 26) 林 試：森林防疫ニュース，(6)，28，(1952)
- 27) 斎藤孝蔵：朝博報，(7)，10—13，(1928)
- 28) ————：水原高農学術報告，(6)，129—133, 192—193, 197, (1941)
- 29) ————：森林虫害早期診断法，8，18，(1951)
- 30) ————：森林昆虫学，118—120，(1957)
- 31) 佐々木忠次郎：大日本山林会報，(210)，4—6, (211)，1—4，(1897)
- 32) ————：日本樹木害虫編，上巻，136—143，(1901)
- 33) 鈴木 篤：応動，VI, (3)，103—105, (5·6) 254—272, (1934)
- 34) TAKEUCHI, K: Tran. Kansai Ent. Soc. (1), 3—17, (1930)
- 35) ————：Tenthredo, II, (2)，206—215, (1938)，III, (2)，187—195, (1940)
- 36) ————：Tran. Kansai Ent. Soc. XIV, (2)，47—50, (1949)
- 37) 竹内吉蔵：昆虫図鑑，マツハバチ科，ヒラタハバチ科，1329, 1353, 1355, (1950)
- 38) ————：原色日本昆虫図鑑，マツハバチ科，ヒラタハバチ科，113, 126, (1955)
- 39) 内田登一：農薬の病虫，V, (1)，31—32, (1951)
- 40) 渡辺福寿：日本樹木害虫総目録，5—8, 182, 280, 438, (1937)
- 41) 矢野宗幹：山林公報，(6)，124—126, (1912)
- 42) ————：昆虫世界，XX, (5)，(1916)
- 43) ————：佐藤 覚：昆虫，II, (4)，209—212, (1928)
- 44) ————：昆虫図鑑，ハバチ科，459, 460, 469, (1932)
- 44) UASA, H: Illinois Biol. Monog. VII, (4)，46—48, 106, (1922)

(林業試験場保護部昆虫研究室)

紹	介
---	---

ノウサギの伝染病

池田真次郎

1952年に、ヨーロッパ全地域に流行したノウサギの伝染病があつた。ノウサギの黒死病ともいわれた程猛威をふるい、イエウサギにも感染しているいろいろの問題を提起したのである。わが国でもこれに関する簡単な記事が新聞紙上に報道されたように記憶している。

最近、イギリスの J. Wentworth Day という人が *Poison on the Land* (1957) という著書に、この事に就いてかなり詳しく書いている。既に旧聞に属している部分もあるとは思ふが、参考になる点が多いので、その内容の要点を紹介することにした。

病原体のそもそもの発祥地は南アメリカで、モンテビデオの Sanarelli という人が、ノウサギから分離したもので、それは 1898 年のことなのである。この病原体は南アメリカ産のノウサギには、感染しても致命的な障害は起きなかつたが、ヨーロッパ産のノウサギ及びイエウサギに対しては 98% の死亡率を示した。次いで同じく南アメリカの科学者である Dr. H. de B. Aragao という人が、ノウサギが増殖して困っているヨーロッパで、その駆除にこれを利用できるのではないかと考え、まづオーストラリアへ移入してみたのである。その当時は単に実験室で使用する程度に留つていたが、1950 年にいたつて、実際にノウサギを駆除する目的で保菌状態にある兎を数頭野に放した。その効果は顕著に現われ、まづ南東部に始まり、次第に全地域に拡がり、1953 年には全棲息数の 5 分の 4 を駆除するにいたつた。

ヨーロッパでの大流行は 1952 年であつて、その端緒は、フランスの科学者である Dr. Aramand-Delille という人が、この問題に興味を抱き、病状を観察する目的で自分の家の庭へ罹病した兎 3 頭を放飼した。この庭は完全に屏で外界と遮断されていたのだが、果然そこを中心にして流行し始め、遂に全ヨーロッパ及びイギリスにまで蔓延するにいたつた。

以上のようないきさつで、ヨーロッパでの大流行が始つたのであるが、その病原体は、人間のイ

ンフルエンザや犬のデイステンバの病原体と同様に濾過性のもので、Myxomatosis cuniculi といわれるものである。そして感染経路は病兎自身が運ぶ以外には、蚊・虻・蠅によつて伝播される。罹病した個体は、頭・唇・眼の各部が腫れ、視聴覚を失い、遂には、体躯がシユークリームのように膨れ、体毛が部分的にまとまつて脱落する。多くは感染してから早い場合は 10 日、おそくて 6 週間後に死にいたる。但し一度罹病して快復したもの又はその個体から産れた仔兎は、免疫性を得る。

次に他動物への影響はどうかというと、イエウサギ以外には感染しないと云われている。併し、ヒツジ・ネコ・キツネ・イタチ・ハリネズミ等が本病の発生地内で、ウサギと同様の症状で死亡した例の報告があり、絶体に人間及び他の動物には伝染しないという科学的な確証は未だに得られていない。特に、地域に適した新しい型の病原体のできるおそれは充分あり、そうした際には、人間へも感染し何等かの障害を起させる新病原体の形成も可能なことであるから、充分注意すべきである。

ヨーロッパ及びイギリスでは、本病の流行の結果、兎毛皮工業が成り立たなくなり、兎毛皮から得ていた安価な帽子、オーバーその他のものが値上りをきたし、更に低収入者階級の重要な食肉源であつた兎肉がなくなり、各方面へ相当の打撃を与えたのである。そこで、この流行病の撲滅が各地ではかられなければならなくなつた。免疫血清があつても、全イエウサギにこれを施すということは、事実上不可能に近い。従つて消極的ではあるが、病兎の死体は発見され次第焼き捨て、巢孔はみつげ次第ガスで燻蒸後埋めるような規則を制定した地方もある。これに類した対策の結果、現在では、次第にノウサギの棲息数が挽回してきて、ある地方では、平常時の 26% 程度にまで、恢復した所もある。

他方オーストラリアでは、その利用によつて、ノウサギの棲息数を効果的に減少させることに成功し、そのために得た農産物の増収高は金額に見積つて、5,000 万ポンドにのぼつたと報告されている。併し、この際、本方策を実施するに当つては、大規模な科学的予備処置を必要とした事実は見逃せない。

著者は最後に、本流行病は、数年足らずのうちに、東洋地区へ侵入するだろう。そしたら、生活程度の低い住民達の生活を、直接にも間接にもおびやかすことになるにちがいないと、警告を発している。

以上は 36p. にわたる記事の要点を記したに過

きないのであるから、詳しくは原著を閲覽して戴き度い。併し上記の中からだけでも、我々は学びとることが多いと思う。まづ最も重要なのは、新しい天敵を外から輸入する際には慎重にしなければならぬということである。ヨーロッパ大陸へこの流行病を持ち込んだ Dr. Aramand-Delille は、社会的な批難を受けたようである。またオーストラリヤで一応成功しているようであるが、それにしても実施するまでにおそらく準備期間と思われる約 50 年間の時間が置かれたことは、この事を明白に物語っている。それに、地勢的にいつても、この種の仕事を実施するのに適しているのも争われない事実である。更にノウサギが全滅にひんした結果、ノネズミが増殖してきた事を著者は報じている。それは、ノウサギがいなくなつたのでキツネが食物の不足から減少し、ノネズミはノウサギの分まで食料が増加し、増殖してきたというのである。一見ノウサギに代つてノネズミがキツネの食物の対照になりそうなものであるが、事実は注文通りにゆかない。これは急激に自然のバランスを破ると、必ずその歪が我々の生活に影響を及ぼしてくるという現象を示す好例と思う。

最後に若しこの流行病が日本へ侵入してきたとすると、ヨーロッパの場合と同様にノネズミの増殖が考えられる他に、毎年 100 万枚に及び輸出原毛皮の主位を占めている兎毛皮は全滅し、他方安価な肉資源も失われ、社会問題になりかねない。

ノウサギ駆除のためにこの病原体を日本で使用するとすれば、おそらくその事前対策の費用が膨大になり、経済的に引き合わないだらう。更に、対策がとれる場合はまだしも、とれない他の有益鳥獣の保護という観点からすれば、賛成する余地はないと思う。

(林野庁造林保護課・理博)

質 疑 応 答

○気象的害に伴うスギの暗色枝枯病

【問】昭和 29 年植栽のスギですが、植栽翌年から点々枯死しはじめました。中でも生長良好なものがやられてゆくようです。枯死木は赤く枯れ、幼茎には灰黄色点状物、葉には黒色点状物が多数生じています。枯死の原因につきお教え下さい。(千葉営林署)

【答】標本上の病原菌、幼茎上の灰黄色点状物は *Macrophoma Sugi* HARA., スギ暗色枝枯病菌 (*Guignardia cryptomeriae* SAWADA の不完全時代)、葉上の黒色点状物は *Phoma cryptomeriae* (KAWAM) KASAI スギ赤枯病菌で

すが、これらは枯死の直接の起因者ではありません。このうち比較的重視されているものは、スギ暗色枝枯病であり、強風による茎葉の損傷、乾燥による衰弱により、誘発され一斉に発病することがあります。標本の場合、生長良好なものから枯死しているとの事ですから、主因としてはこの種、寒冷、乾燥、強風等気象的な害が予想されます。現場に行つて検討してみたわけではないのはつきりはいえませんが、殊に冬期における異常気象、地形的な関係から生ずる霜穴等は重要な因子になります。

参 考 文 献

森林防疫ニュース, 6 (5): 100—103, 1957.

—————, 7 (4): 58—62, 1958.

(林試樹病研究室)

○スギの一例多疣病

【問】樹令約 20 年ほどのスギの針葉及び小枝が褐色になつて枯れるのが目立ちます。

枯れた針葉には暗緑色をした塊状のものがみられます。病名、防除法等をお教え下さい。

(東京・佐野)

【答】これはサーコスボラ、クリプトメリエコラ (*Cercospora cryptomeriaecola* SAWADA) 菌によるスギの一例多疣病です。

針葉についている暗緑色の塊状物は、ほぼ一列に 15—20 個ほど並んでいるのが普通です。

拡大してみるとやや毛ばだつてていることが判ります。これは本菌の分生子梗と分生子で、この孢子が飛んで新しく病気をおこします。

一般にこの病気は除伐、間伐あるいは枝打などのおくれた手入れ不十分な林分に発生しやすい傾向があります。今後保育に充分気をつけて下さい。

刊 行 物 紹 介

農林協会 林野時報 5. 1958

井上 元則: 北米で手をやく森林害虫

宇田川竜男: 兎害防止の問題点

大日本山林会 山林 33年6月号 No. 889

眩黒 友三: 白蟻の駆除と予防について

鳥取県林業試験場 試験研究報告 第2号 32. 9

大森 一男: 鳥取県に於ける「スギタマバエ」について

兵庫県林業試験場 業務成績報告

〃 : スギの赤枯病防除試験

〃 : スギの赤枯病及び原菌

(*Cercospora*) 接種予防試験

〃 : 根切虫防除試験

〃 : スギ毬果の害虫について

旭川営林局 寒帯林

余語 昌資: 穿孔虫被害のこれからの問題点とくに森林作業について

雑 録

昭和 32 年度
林業試験場保護部業務報告会

今 関 六 也

3月4日～7日の4日間にわたって、保護研究業務報告会と本支場の保護研究打合せ会が本場で開かれた。簡単にその内容を紹介して皆さんの御理解と御批判とを賜りたい。なお試験研究は短時日では成果をあげ得ないものが多く省略したテーマも多いこととお断りする。

樹 病 関 係 (本場)

スギ黒点枝枯病の発生環境調査 (小林) 主として伊豆半島で調査を行った。発病は4～7月頃、空中湿度の高い環境に発病が多いようである。また胞子の形成、伝染経路がはつきりしない。

スギ軸枯病の発生環境調査 (陳野) 土壌の凍結の甚しい寒冷な土地に発病が多いようである。

ナラタケ病の発生環境調査 (小林) 上田営林署管内のドイツウヒ林 (25年生) 及びカラマツ幼令林の被害地を調査。ドイツウヒでは罹病株の根から隣接木の根へと接触伝染することを確認した。カラマツ幼令林の発病は土壌の湿った場所に多い傾向を知った。

カラマツ落葉病発生環境調査 (後記)

スギ赤枯病に対する抵抗性 (小林)

スギ赤枯病の粉剤による防除試験 (陳野) 黄色亜酸化銅粉剤相当 4.5 kg は 6 斗式ボルドー液とほぼ同様の結果を得た。3 kg 以下はやや劣るようである。

木酢液の土壌微生物相に及ぼす影響 (寺下)

ポプラの品種と銹病に対する抵抗性 (千葉, 陳野) ポプラの 86 系統に対して夏胞子の接種試験を行った。

ポプラの病害調査 (伊藤, 千葉, 小林) 数種の葉又は枝の病害があり、特に *Marsonia* sp. によるものが被害が大きかった。

クリ胴枯病に対する抵抗性品種の検定 (小林)

(北海道支場)

カラマツ梢枯病 (魚住) 苗畑及び造林地に大発生、札幌営林局管内だけでも 400 町歩にわたって被害をうけている。6～7月頃新葉に *Sphaeropsis* (不完全時代) を、9～10月頃に *Physalospora* (完全時代) の形成をみとめた。防除の目安はまだ立たない。

トドマツ秋蔭床に発生した立枯病 (小野) 地中に *Mylitta* 属と思われる小指先大の菌核が密生している。菌名も病原性もまだ不明であるが注目すべき病害である。

その他針葉樹の雪腐病の薬剤防除試験 (魚住) ナラタケ病防除試験 (魚住) など。

(青森支場)

苗畑病害の防除試験 (横沢)

森林病害に関する研究 (横沢) スギの黒点枝枯病, スギの黒粒葉枯病, マツのハフルイ病, マツの枝枯性病害 (*Cenangium Pini-densiflorae*) などについて発生環

境調査を行った。

(秋田支場)

稚苗の立枯病に関する研究 (佐藤) 種子は貯蔵期間が長いものほど地中腐敗が多くなる。それは貯蔵中に種子内の成分に変化が多くなるかららしい。その物質はアルコールに抽出されるもので、その中には菌の発育を阻止するものが含まれているようである。

針葉樹の雪腐病に関する研究 (佐藤他) 近く研究の成果は印刷される。

スギの枝枯病 (枝枯菌核病, *Scolecosporium* 病) について (佐藤他) 土壌がわるく生育不良, 通風が悪く空中湿度の高い林分に多いようである。

針葉樹立枯病防除試験 (野原他) 木酢液, ホルサイド, 水銀剤, 標準区をくらべると, 立枯病罹病率は 9.5, 11.4, 18.5, 32% であつた (樹種: カラマツ)

スギ赤枯病防除試験 (野原他)

(京都支場)

スギ造林地の一列多疣病発生環境調査 (紺谷他) ヒノキ, ヒバの漏脂病発生環境調査 (〃) 竹林の病害に関する研究 (〃) など。

(熊本支場)

スギの胴枯性病害に関する研究 (徳重) 熊本, 宮崎, 鹿児島県下 5000 町歩のスギ幼令造林地に発生した病害について研究した結果, *Phoma*, *Guignardia*, *Cercospora*, *Biatorella*, *Coryneum*? などの菌が認められた。地形的には南, 南西, 東南面に多く、一般に春先 3～4 月頃の異常乾燥及び強い霜害をうけた土地に多かつたようである。品種はオビスギ系のものに多く、また一般に生長の良いものに多かつた。

共同研究

カラマツ落葉病の生態的防除に関する研究。

この研究は 32 年度から本場, 北海道, 青森, 秋田, 木曾の共同研究としてははじめたものである。森林病害の防除が薬剤にたよれないことは言うまでもないが、森林の病害対策としては生態的防除というきめ手があるはずである。それは発病を促す環境条件を追究して、それを除く造林・保育法を発見して行くことである。まず研究の対象としてカラマツ落葉病をとりあげた。32年度は落葉病の発生地を地形, 林相, 植生, 土壌などの各方面から分析し帰納的にその発病の誘因条件を探った。一年の成果だけでは特に記すこともないが、土壌・栄養の条件が発病を左右する場合が多いようであり、また激害地にも点々と青★とした個体があり、抵抗性の個体があるのではないかと考えられ、今後の研究の発展に明るい見通しをたてるに至つた。

昆 虫 関 係 (本場)

マツカレハの発生子察に関する研究 (後記)

マツ類の穿孔虫に関する研究 (日塔, 加藤)

ハラアカマイマイの生態に関する研究 (有賀)

スギノハダニの生態と防除 (藍野, 萩原) 薬剤はネオサツピラン, DNなどを試みたが、一回の散布で2カ月以上の防除効果を期待することは困難である。

サビヒョウタンゾウムシの生態と防除 (山田) アルドリ ン 4% 粉剤相当 7.5 kg 以上の土壌処理は越冬幼虫夏期の次世代幼虫に対して著しい効果を示した。

森林防疫 ニ ュ ー ス

マツ穿孔虫類に対する BHC の効果 (加藤, 串田) マツ丸太に 1% 乳剤を散布すれば 6 カ月, 0.5% では樹皮下穿孔虫には 6 カ月, 材穿孔虫には 3~4 カ月有効, 0.25% では前者には 6 カ月有効であるが, 後者には殆ど無効であった。

燻煙剤に関する研究 (川崎, 加藤) 東京営林署管内城山国有林で昆虫, 薬剤, 気象の 3 研究室の共同で大規模な試験を行った。林内にマツカレハ幼虫と瀟紙多数を設置して幼虫の死虫率と瀟紙に付着した BHC を定量した結果, 両者の間に同じ傾向が認められた。この試験により燻煙剤の林内における濃度分布を知るためには必ずしも害虫を供試材料として使わなくてもよいのではないかと, 従つて燻煙剤の基礎試験の方法論として一步前進する可能性がみとめられた。

(北海道支場)

トドマツ造林地におけるアブラムシ類 (山口) トドマツ幼令造林地に最大の被害をおこすアブラムシ類について, その繁殖, 分散と環境諸因子との関係を追及した。

穿孔虫の繁殖, 分散に関する基礎研究 (山口他) ヤツバキイでは光線量, 温度が虫の飛来, 加害に影響がある。

砒弗化亜鉛剤によるキクイムシ類の餌木誘殺試験 (井上, 山口) BHC 使用による餌木誘殺試験 (小杉, 平佐) これらの薬剤が吸収または散布された立木または餌木は穿孔虫を誘致し殺虫する効果があるので, 実用価値は少くない。

(青森支場)

苗畑害虫ゾウムシ類の生態と防除 (木村他) 1) アルドリ (反当 2.5~10 kg), 2) クロールデン (5% 2~12 kg) を 1957 年に施用, 2 年後の虫数を調べたが 1) では密度殆ど 0, 2) では 12 kg 区が 6 kg より虫数少く, 2~4 kg では標準区と同数または以上であった。また被害発生地で 7 月にアルドリ 23.5% 乳剤の 100, 200, 400 倍液を m^2 当り 2 l 灌注したが効果が著しかった。

(秋田支場)

ポプラ害虫の研究 (直田他) ポプラ害虫はヤナギ類の害虫と共通のものが多く, 文献で集めると 485 種にのぼるが釜淵で確認したものは同定 76 種, 未同定 50 種があった。ポプラ栽培は病虫害を無視してはならないといわれるが, 病虫害が多いことはこの基礎調査によつても明かである。

(京都支場)

共同研究マツカレハの発生予察の他に, 小蛾類の分類及び生態・カラマツヒメハマキの防除・竹林の害虫調査・松丸太の防虫防菌試験などを研究中である。BHC 0.5%・PCP 5~2% 乳剤の散布は京都附近でも 6 カ月間丸太の健全性を保証した。(中原他)

(高知支場)

マツカレハの他に, 苗畑害虫類の動的生態, マツノシントメタマバエの生態並に防除試験を主なテーマとしている。(越智)

(熊本支場)

マツカレハの他に, スギザイノタマバエの防除, 生態, 発生環境について調査研究を行った。この害虫は保

育管理が悪い林分に発生するものと考えられるので, 今後のスギ造林に対しては衛生思想を充分にとり入れた保育が必要であろう。現在の被害地に対して薬剤散布試験を行ったが, 燻煙剤は不適当で, BHC 粉剤 (1~3%) の樹幹散布が良かった。(小田他)

共同研究

マツカレハ発生予察に関する研究

(本場, 青森, 秋田, 木曾, 京都, 高知, 熊本)

31 年末から開始した共同研究であるが, 32 年度から山口, 兵庫, 石川の 3 県林業試験場及び九大安松京三教授の御協力を得 (応用研究費) 全国的規模で試験を行うことになった。本支場とも一年間の調査資料を持ちよつて, 棲息密度の測定, 天敵昆虫・天敵微生物の寄生率などについて質的量的解析を行った結果を話し合い今後の調査法について検討した。

天敵類はマツカレハの消長を左右する有力な一因子と考えられ, 大発生期を境にして寄生率は変化し, また天敵の種類は地方により, 季節により差があることが認められた。この研究は 10 年計画で行つているので, 成果を見るまでには長い, 根気のよい, しかも的をついた調査分析が必要である。

この機会に安松教授からマツカレハ天敵昆虫について詳しい解説紹介があり, また 3 県林業試験場からも試験地設定について紹介があった。

鳥獣関係 (本場)

木曾分場と共同して行つた木曾谷の鼠害の消長と防除試験に主力が注がれた。この試験は更に継続し, 異常発生の際の鼠類の消長, 生態を追及している。ノウサギの飼育はまだ成功しなかつた。(宇田川他)

(北海道支場)

野鼠については, 前年に引きつづき異常発生の要因 (上田他), 野鼠の繁殖と移動分散 (木下他), 鼠害発生機構の解明 (前田), 野鼠の天敵 (特に伝染病) (樋口), などについて研究を行つている。

エゾヤチネズミ繁殖は 5 及び 9 月を最盛期とする。他の鼠との間には棲息環境の選択性に差があること, 季節的に移動があることなどが判つた。これらの要因を分析することによつて駆除対策を能率化することができると考えられる。

エゾノウサギの防除は北海道における拡大造林事業を達成する為の急務である。32 年度には 13 頭の飼育にほぼ成功しつつあったが *Toxoblasma* 病が突発して 8 頭が感染死した。この事故は一面エゾノウサギの天敵防除の研究にヒントを与えるもので, 新しい研究課題として北大獣医学部との共同研究を開始した。なお兎害の防除にはノウサギの棲息数を少なくすることが何よりも根本である。最近の統計により, 北海道における捕獲数が増加し, これに伴つて被害が減少しつつあることを数字的に調査したが, 重要な示唆を与えるものである。

(上田, 柴田他)

(木曾分場)

1956 年に木曾谷に発生したノネズミを毎月, 数カ所の営林署に設定した調査地から集め 4,000 頭について外部測定及び解剖して生殖器の状況を観察した。成績はとりまとめ中。これは 32 年度に捕獲したネズミについても

森 林 防 疫 ニ ュ ー ス

行っている。解剖した鼠は次の通りである。

(水野, 伊藤)

	ハタ ネズミ	ヒメ ネズミ	アカ ネズミ	スミス ネズミ	ヤチ ネズミ	計
1956	3,084	465	268	94	79	3,990
1957	664	344	324	44	11	1,387

苗 類 関 係 (本場)

ブナ丸太の変色, 腐朽, トドマツ, エゾマツの青変, マツ丸太の青変に関する研究。穿孔虫と青変菌との間には生態的に密接な関係があり, 穿孔虫の体から各種の青変菌が分離される。(青島, 林他)

針葉樹の立木腐朽病については青森のヒバの根株腐朽の実体を調べた。(今関, 青島)

食用菌については従来集めたシイタケの系統について栽培試験の結果を整理し, 数種の特長ある系統を得た。(永井, 伊藤他)

(熊本支場, 宮崎支場)

シイタケの多数の系統を栽培し, 生態的, 形態的特性, 収穫量, 椀木樹種と生産量などについて調査を行った。この試験は数年間継続してとりまとめる予定である。

薬 剤 関 係 (本場)

丸太材の防虫防菌についての基礎研究として, 丸太に散布された薬剤の行動(材への浸潤, 残効, 流亡など)について詳しく試験中である。(慶野, 富樫)

燻煙剤については, 32年度に燻煙剤実験装置が完成したので, 野外試験と併行して煙霧質の捕捉法, 微量定量法などについて基礎的研究を行った。即ち BHC 煙霧質を濾紙に付着せしめ, これをアズキゾウムシによって生物学的定量法を検討した。野外試験で行った結果については前記(本場昆虫の部)の通りである。(川崎, 伊藤)

病虫獣害鑑定と指導

病虫獣害の鑑定はますます多い, 本支場を通じて凡そ 850 点に上り, 国有林, 民有林はほぼ半ばしている。その他シイタケ栽培上の指導相談, 病虫害に関する講演, 実習, 指導なども数多く, 研究者は患者の応対, 研究, 指導と寧日ない有様であるが, この多忙さにも負けず, 日本の森林の健康のために, 増産のために全力をあげていることを申しのべ, 各方面の御理解と御協力をを毎年のことながら期待してこの報告をおえる。

安松京三博士が昆虫学講座担当

九州大学農学部昆虫学講座は故江崎第三教授の後任として, 5 月からは安松京三博士が担当されることとなった。

「野鳥の生態」(森林の鳥)

いよいよ完成

昨年から 1 年あまりの日時をかけて, 林野庁が企画, 指導してきた記録映画「野鳥の生態」の第 1 編「森林の鳥」がいよいよ完成した。これは前号でお知らせした

「大自然のはばたき」と同じに, 新研映画 KK が撮影製作したもので, 5 月 9 日, 虎ノ門共済会館で, 林野庁長官主催の試写会が催され, 当日は多数の来場者があった。この映画は, この種の記録映画として, また, 官庁の一種の PR 映画としては, 異例なほどに, 一般来場者各位にはもちろんのこと, 映画関係者, 野鳥研究家等のそれぞれの専門家にもすこぶる好評であった。

なおこの映画は, 5 月末, フランスで催されるフランス鳥学会総会, 6 月上旬ヘルシンキにおいて催される, 国際鳥類保護会議の席上でも上映されることになり, この会議に出席される日本鳥類保護連盟理事長山階芳麿博士が, 5 月 17 日空路携行された。

森林防疫ニュースの利用状況調査

本誌の利用される状況については, 昭和 31 年 10 月にアンケートを発送したことがあり, この時は各県の担当者の方に回答をおねがいして, 本誌に対する読者の感想や要望などととも, 配布される状況を調査した。Vol. 5, No. 12, p. 24 にこの結果を簡単に報告した。その後約 2 年を経たので, 再び本誌に対する声をきいて, 編集の向上に資そうとなつた。本誌の程度が高すぎるという声はいまのところあまりないが, あまり低くしているとも考えていないので, これでよいかどうかもきめて頂けるであろう。いつもくりかえすようであるが, 本誌の生命は情報である。解説や観察の記事はそのために必要がおこってくるわけであるが, あえてそえものと考えているわけではない。解説や観察の読者が相当多いことは事実である。

こうした調査では細目にわたることはできないが, あらためて実施されたときは, 回答を頂けるようにご協力をおねがしたい。

昭和 31 年度森林有害動植物被害調査報告の刊行

昭和 31 年度に発生した森林病虫獣害についてとりまとめ中のところ, 近く本印刷にかかることができるようになつた。前年にくらべると内容的には報告の件数が増えて, 頁数も 290 頁という大部のものになる。ますますその資料としての重要さを加えているが, 印刷予定部数が少なく, 希望者の手に全部はあたらないので, 本協会では, 実費による別刷の頒布を考えている。

訂正 Vol. 7, No. 6, p. 1 の巻頭言の最後の行(前橋営林局経営部長)は(秋田営林局経営部長)の誤につき, 訂正するとともに, 失礼をつつしんでお詫び申し上げます。

同 p. 16, 右上から 3 行目の雲の研究家とあるは, 雪の研究家の誤で, 訂正するとともに, 失礼をつつしんでお詫び申し上げます。

編集後記 本号は久しぶりで情報が充実し, 9 頁を占めることとなつた。報告を送つて下さった方々にお礼申し上げますとともに, 今後もこんな小さな被害などといわれずに情報を送つて頂きたい。何が将来脚光をあびるかは, 本誌の情報をみていればわかるといつてもはばからない。昨年から本年にかけてマツのハバチ類による被害が目立つので, 本号は林業試験場の加藤技官におねがいでして解説して頂いた。